

平成 24 年度 言語文化生涯学習講座

「言語を見つめて：そしてもう一つのコトバも」

言語文化生涯学習講座は今年で7回目となります。昨年度に引き続き、5日間の講座を開催いたします。テーマは「言語を見つめて：そしてもう一つのコトバも」。さまざまな視点から言葉の世界への理解を深め、一緒に楽しんでみたいと思います。皆様どうぞ奮ってご参加ください。

回	日時	タイトル	講師
1	2月28日(木) 18:00~19:30	あなたに聞こえる音と私に聞こえる音は同じ？	かたやま たまみ 片山 圭巳
2	3月1日(金) 18:00~19:30	心の中の辞書	たかしま ひろおみ 高島 裕臣
3	3月4日(月) 18:00~19:30	英語の漫画で3-11を読む	ロナルド・スチュワート
4	3月5日(火) 18:00~19:30	『直訳』という書物はいかにして独習書となるか？	うまもと つとむ 馬本 勉
5	3月6日(水) 18:00~19:30	「日本」は自称か他称か？ 他称とはそもそも どういうことか？	ぜにひろ まさゆき 銭廣 雅之

開催日時：平成24年2月28日(木)・3月1日(金)・4日(月)・5日(火)・6日(水)
いずれも18:00~19:30(90分間)

会場：県立広島大学 庄原キャンパス CALL 教室(2号館5階2502講義室)

対象：英語学習経験を問わず、興味関心のある方。初心者歓迎。

定員：各回とも30名(申し込み先着順)

受講料：無料

申込方法：次の(1)~(4)を明記の上、平成25年2月25日(月)までに、はがき、ファックス、電子メールのいずれかで、県立広島大学庄原地域連携センターまでお申し込みください。

(1) 名前(フリガナ) (2) 住所 (3) 電話番号 (4) 受講希望回(※5日間の講座のうち、ご希望の回のみ受講可)

申し込み先：〒727-0023 庄原市七塚町562 県立広島大学庄原地域連携センター
ファックス：0824-74-1704
電子メール：gakujutu@pu-hiroshima.ac.jp

問合せ先：① しょうばら産学官連携推進機構(庄原市東本町1丁目2-22) TEL：0824-72-2121

② 県立広島大学 馬本研究室 電子メール：umamoto@pu-hiroshima.ac.jp

主催：県立広島大学庄原地域連携センター
しょうばら産学官連携推進機構

◆各講座の内容◆

第1日) 片山 圭巳 あなたに聞こえる音と私に聞こえる音は同じ？

本講座では、タイトルのとおり、ある音声がかつての人に同じように聞こえるのかどうかについてお話をします。異なる言葉を話す人たちの間、また、大人と赤ちゃんでは、音声（主に言語音）の知覚に違いがあるのか、そして違いがあるとしたら、どのようにその違いが生み出されるのか。第一言語と第二言語における音声知覚研究についてどのようなことがわかっているかを概観していきます。体の一器官である聴覚器官がいかにか言語と密接に関わっているのか、言葉の発達を交えながら考えていきたいと思ひます。

第2日) 高島 裕臣 心の中の辞書

心理言語学という研究分野では、人がことばを理解したり、産出したりするメカニズムを解明しようという試みの中で、心の中に記憶されている単語に関する情報（いわば心の中の辞書ですね）はどんな姿なのか、どのように利用されているのか、ということが盛んに研究されてきました。この講座ではそれを簡単にですがご紹介します。そして、私たちの日常的な言語運用において、心理言語学者が関心を持つ心理言語学的現象のいくつかについて考えてみたいと思ひます。

第3日) ロナルド・スチュワート 英語の漫画で3-1 1を読む

東日本大震災が広く衝撃を与え全世界のメディアの注目になりました。この講座では英語圏のマンガ、特に英字新聞の一コマ漫画、という絵と言葉の媒体の好例を読みながら、この震災とその後が続く問題はどうか見られているのかを考えましょう。

*** 今回の講座は主に英語で行なう予定です。***

第4日) 馬本 勉 『直訳』という書物はいかにして独習書となるか？

英語圏の国から輸入された明治初中期の英語教科書には、「独案内」「直訳」「講義」と呼ばれる独習書が多く存在しました。国立国会図書館をはじめとする各地の図書館などにも多く残されている独習書のうち、今回は『パーレー万国史』『ウィルソンリーダー』の「直訳」を取り上げ、独習書としてどのように用いられ、学習者はどうか英語を学んだのか、実物を見ながら探っていきたいと思ひます。

第5日) 銭廣 雅之 「日本」は自称か他称か？ 他称とはそもそもどういうことか？

「ドイツ」は他称であった、ということが最近の概念史研究で明らかとなった。同様に「日本」についても最近の大陸・半島の考古学的発掘・調査の進展によって明らかとなりつつある。他称だと。我々のプライドが傷つく。つらいがここで逃げないで、そもそも他称とはどういうことか、その「他」とはどういうことか、を問うてみることにしよう。歴史的事実を踏まえ、哲学的論理で整理し、宗教学的妄想で跳ねてみる。